

06 シトラスリボンに願いをこめて

(新型コロナウイルス感染症)

みな 皆さん、いかががお過ごしですか。福岡市がお送りする「こころのオルゴール」の時間です。今日は私、こはまもところがお届けします。

10 新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、感染した人が職場や学校などに復帰する時に、冷たい視線や心ない言葉で傷つけられていることが問題になっています。今日は、復帰した感染者を温かく迎えたある取り組みを紹介します。

「ただいま」
「おかえり」

15 令和2年の春、福岡和白リハビリテーション学院では、緊急事態宣言が明けて久しぶりに登校した学生を、先生たちが手づくりしたシトラスリボンで迎えました。

20 この学校では、学生が感染するクラスターが発生しました。感染した学生はそれぞれの症状に応じて隔離され、誰にも会わずに未知のウイルスの恐怖と向き合う日々を過ごしました。それだけでも大変なのに、中にはネット上で犯人さがしのよな嫌がらせを受け、深く傷ついた学生もいたのです。

「復帰後も、感染を理由に差別されるんじゃないだろうか？」

25 と、学生たちは不安を抱えていました。電話で相談を受けていた先生たちは、そんな学生たちが、また元気に登校してくれるようにと考え、シトラスリボンプロジェクトに参加しました。

30 シトラス色のリボンで作る3つの輪は、「地域、家庭、職場もしくは学校」の3つを表しており、復帰した人たちがそれぞれの生活の場に安心して戻っていけるように、との願いがこめられています。感染した学生たちは、「シトラスリボンにこめられた先生たちの思いが伝わってきて、ホッとしました」と、笑顔で普段の生活に戻ることができました。

40 皆さんみなの周りまわではどうでしょうか。たとえば、やっと職場しよくばに復帰ふっきした人ひとが、「おかげで仕事しごとが忙いそがかった」などと嫌味いやみを言いわれたり、社内しゃないメールで「残念ざんねんなことに感染者かんせんしやが出でました」と悪者わるもの扱いあつかいされることも、あってはならないことです。感染者かんせんしやが出でた、出でないということよりも、その後の復帰者ふっきしやに対して、適切な対応たいおうができるかどうかが大切たいせつなのです。たとえばウイルスに感染かんせんしても、誰もだれが笑顔えがおの暮くらしを取り戻もどせるように。「ただいま」「おかえり」と心こころから言いい合あえる人ひとの輪わを、このままちからも広ひろげていきたいですね。